

第1号様式（第7条関係）

環境マネジメントシステム導入報告書

| | | |
|--|---|--|
| (宛 先) 京 都 市 長 | | 平成 28年06月30日 |
| 報告者の住所（法人にあっては、主たる事務所の所在地） 京都市南区久世大藪町4 6 9 番地 | | 報告者の氏名（法人にあっては、名称及び代表者名） 事業所長 安東 俊治 |
| 京都市地球温暖化対策条例第22条第2項の規定により報告します。 | | |
| 環境マネジメントシステムの名称 | ISO14001:2004 | |
| 適用範囲 | 日本板硝子株式会社 京都事業所 | |
| 導入年月日 | 2011年 12月21日 | |
| 認証番号 | NO.12 104 21918/43 TMS | |
| 基本方針 | 我々は、地球環境の大切さを十分認識して、環境と調和した生産活動を行って いく。そして、地域社会から敬愛され共存でき、従業員が誇れる事業所を目指 し、健全で豊かな社会の実現に貢献する。 | |
| 環境に配慮した事業活動を自主的に進めていくための 目標（以下「目標」という。） | <ul style="list-style-type: none"> ・CO2排出枚数原単位の削減 : 2015年度比 1%削減 ・産業廃棄物処理量の削減 : 2015年度比 1%削減 | |
| 目標を達成するための取組の内容 | <ul style="list-style-type: none"> ・CO2排出枚数原単位の削減 1) 設備稼働率の向上 2) 生産スピードのアップ 3) 設備の省エネ運転化 4) 機器の効率化 ・産業廃棄物処理量の削減 1) 分別の徹底 2) 分別の細分化 3) 廃棄カレットの循環カレット化 4) 廃棄物の有価物化 | |
| 目標を達成するための取組の進捗状況 | <ul style="list-style-type: none"> ・CO2排出枚数原単位の削減 1) GHP炉、PB炉…等、設備稼働率が過去最高を更新中 2) 生産スピードアップは各設備に於いて、着実に成果が出ている ・産業廃棄物処理量の削減 廃プラ類の分別の徹底と分別の細分化により、有価物化して産業 廃棄物の減量化を推進している | |
| 目標を達成するための取組の成果及び当該成果に対 する評価 | 当初の計画通りに取り組みは進捗しているが、新規設備の設置により エネルギーの消費、廃棄物の増加が予想される。 | |
| 事業活動に係る法令の遵守の状況 | 当事業所に関わる関連法規の遵守状況は、6/Mに1回確認を して居り、違反及び行政指導は認められません。 | |
| 環境マネジメントシステムの評価及び見直しの内容 | 環境目的・目標の設定は2011年度に5年計画で取り組んで 参りましたが、2014年度実績で最終年度（2015年）のC O2の削減で数値目標との隔たりが大きく、実現が困難との判断 から2015年度（単年度）の目標値を見直した。 | |

注 認証番号の欄は、導入した環境マネジメントシステムについて第三者の認証を受けている場合にのみ記入してください。